



特別レポート

iOSからの伝送をオーディオグレードで Lightningケーブルに新たに加わる選択肢

iPodデジタル接続に対応したモデルが徐々に数を増やしている。ADLはiOSデバイスへ向けたDockケーブルなどで充実したラインアップを取り揃えており、デジタル接続に対応したモデルも早くから製品化していた。またiD8-Aのように最新世代のiPhone/iPadなどに採用されたLightningコネクタへの対応もいち早く行った実績を持つ。そしてこの度、さらにオーディオ的なグレードを高めたGT8-Aを発表した。

Text by
高橋 敦
Atsushi Takahashi

Photo by 田代法生

ADL X1

USB DAC内蔵ポータブルヘッドフォンアンプ
¥41,790



ADL GT8-A

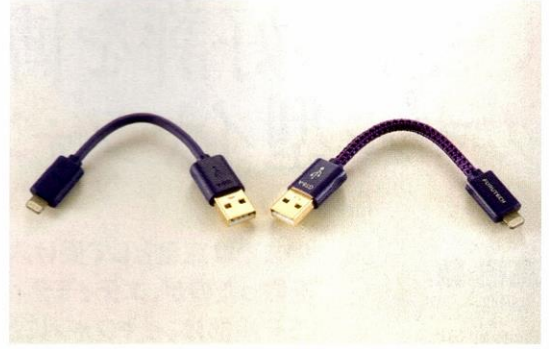
Lightningケーブル
¥13,650 (10cm)
¥14,280 (18cm)
¥16,800 (100cm)

好みのポータブル環境を構築するなかで 音質チューニングの最後の詰めとして有力

● iOS機器をプレーヤーとして活用



iOS機器と接続するのは、ポータブルヘッドフォンアンプに限らない。iPodデジタル出力に対応したUSB Aタイプの入力端子を備えるオーディオ機器などに接続し、システムのプレーヤーとして利用することもできる。現在はハイレゾ音源を再生できるソフトや、イコライジング機能で好みの音に調整できる、音響空間を演出できるソフトなど、iOS上での音楽再生が非常に楽しめる環境にある。そのサウンドを、スピーカーを通じて高音質で聴くのも、Lightningケーブルの活用法のひとつだ。(編集部)



iD8-A(¥7,560/10cm、写真左)とGT8-A(写真右)。メイン導体やシールド構造など、それぞれに優れた素材やコーティングが施されており、その品位は通常の純正ケーブルなどからの音質の差となって現れる

Specifications

[GT8-A] ●導体:α-OCC素材に銀を混入させた究極の銅銀合金線材 ●シールド:3重シールド構造 ●シース:RoHS適合柔軟性PVC ●仕上がり外観:ナイロン糸偏組24Ingot、Mush18 ●ケーブル径:4.0mm ●ケーブル長:10cm/18cm/10cm

[X1] ●DACチップ:ESS-ES9023 ●オペアンプ:TI-LMV832 Dual 3.3MHz EMI-Hardened Low-Power CMOS ●対応サンプリングレート:8/16/32/44.1/48/88.2/98/176.4/192kHz ●ヘッドフォン出力レベル:34mW(12Ω)、65mW(16Ω)、82mW(32Ω)、86mW(56Ω)、36mW(300Ω)、19mW(600Ω) ●周波数特性:20Hz~20kHz(±0.5dB) ●サイズ:68W×16.5H×118Dmm ●質量:約142g ●取り扱い:フルテック(株)

**実用性に秀でたラインナップ
随所に音質への配慮が見て取れる**

ハイエンドアクセサリで知られるフルテックが展開するコストパフォーマンスの高い別ブランド、ADL。そのADLから今回新たに登場したのが「GT8・A」。iOS機器等の側に接続するLightning端子と、反対側にUSBのA端子を備え、iOS機器等と、それらとのデジタル接続に対応するポータブルヘッドフォンアンプやシステムコンポなどオーディオ機器の接続に利用するためのケーブルだ。例えばADLのポータブルヘッドフォンアンプ「X1」との接続に利用できる。同じ用途にはすでに「iD8・A」があるが、その上位モデルとなる。まずはGT8・Aと弟分であるiD8・Aとの違いを見ていこう。導体素材は、iD8・Aは銀コーティングのα(アルファ)・OCC、GT8・Aは素材自体に銀を混入させて銅銀合金としたα・OCC。3重シールド構造でノイズ侵入を防ぐ点は2モデルとも同

じ。しかし外装は、iD8・Aは全てPVC(ポリ塩化ビニール)であるのに対して、GT8・AではPVC2層+ナイロンスリーブの構造に特殊制振素材も加えて振動による音への悪影響をさらに抑え込んでいる。このほかに2モデル共通の点としては、主要金属パーツにはαプロセス処理(①196度の超低音処理+特殊電磁界処理)を実施していること。

使い勝手の面では長さのバリエーションに注目で、10cm、18cm、100cmが用意されている。例えばiPhoneとポータブルヘッドフォンアンプを重ねて使う場面では10cmが使いやすいし、システムコンポと接続する際にはiPhoneを手で持つて操作するのに余裕のある100cmのケーブルが使いやすい。使い方に合わせて選択したい。

高音を整えて低音を引き締める 純正ケーブルからの確かな変化

ではX1との組み合わせで試聴。まずオーディオ用ではない純正のLightningケーブルからiD8・Aに変えてみると、高音を整えて低音を引き締める傾向。ベースの音像のブレが小さくなり、シンバルの芯の通り方も良くなる。ウォーカルは当たりが柔

らかくなり、聴きやすさを増す。そこからさらにGT8・Aに変えると、高音を整えて低音を引き締めるという基本は同様だが、それに加えてギターやシンバルの音の消え際やドラムスのアタックの素直さなど、細かな部分の感触が良くなる。変化としては純正ケーブルからiD8・Aへの交換の方が印象的だが、そこからさらに半歩踏み込むといった感じだ。

iPodデジタル接続対応のコンポネットと組み合わせでのスピーカー再生でも、もちろん同傾向の効果を得られる。また純正ケーブルでは明るめに聴こえた音調が、ややダークな音調にシフトして雰囲気を増す印象でもある。

個人的には、Lightningを含めてUSB周りのケーブル交換は、音に決定的な変化をもたらすものではないと考えているし、感じてもない。しかし、細事の積み重ねで好みの音をねらっていくのがオーディオ。ポータブルにせよ自宅システムにせよ、iOS機器をデジタル接続してプレーヤーにしているのであれば、音質チューニングの最後の詰めとしてLightningケーブルに注目するのは、ありだ。その際に、この製品は有力な選択肢になるだろう。